



3月は自殺対策強化月間 こころの健康セミナー

こころサポーターになろう！

ゲートキーパー養成講座

大切な人が、悩みを抱えて辛い状況に陥っていたら…。その人のために、どんなことをしてあげたらいいだろう。

ゲートキーパーは、悩んでいる人に気づき、声を掛け、話を聴き、必要な支援につなげる、見守る人、言わば「命の門番」。私たちができることはどんなことなのか、学んでみませんか？

- ▼とき 3月16日（月）13時30分～15時
- ▼ところ 保健センター1階保健指導室
- ▼定員 30人
- ▼講師 永井 和江氏（平塚保健福祉事務所保健予防課）
- ▼内容 自殺に関する現状、ゲートキーパーとは、自殺に向かう心理・対応について
- ▼その他 受講後、ゲートキーパー認定バッジをお渡しします。

「こころ良いコミュニケーションで健康を作る！」

日常生活に生かす傾聴

傾聴とは、相手の伝えたいことに耳だけでなく心を傾けて聴く「会話における思いやりの心」のことです。毎日の会話に傾聴の心を取り入れることで、家族や身近な人の笑顔や心の健康をもたらしめます。そして自分にも…。

「聴く」一緒に考えてみませんか。

- ▼とき 3月26日（木）13時30分～15時30分
- ▼ところ 保健センター2階研修室
- ▼費用 無料
- ▼定員 40人
- ▼講師 澤村 直樹氏（アクティヴリッスン 代表）



問・申 スポーツ健康課

☎内線310

大磯農業振興地域

整備計画書の変更

に関する事前相談を受けけます

令和2年度より、大磯農業振興地域整備計画書の変更を希望する場合（農業振興地域の除外希望など）は事前相談が必要となります。

受付期間内に相談がない場合は、今年度中の計画の変更はできませんのでご注意ください。詳しくはホームページをご覧ください。

- ▼受付期間 5月1日（金）～6月1日（月）8時30分～17時まで
 - ▼受付場所 役場3階 産業観光課窓口
 - ▼提出書類
 - ①大磯農業振興地域整備計画の変更に関する事前相談書
 - ②他法令等の確認リスト
 - ③農業振興地域除外5要件チェックリスト
 - ④農用地区域からの除外に関する検討表
- ※提出書類は産業観光課窓口のほか、ホームページからダウンロードできます。

問 産業観光課 ☎内線263

イノシシ・シカを増やさない・寄せ付けない地域づくり 地域ぐるみの総合的対策編

◆駆除だけの被害対策はダメ

町ではイノシシを毎年150頭前後駆除しています。町の面積は約17km²でそのうち森林は約三分の一という規模を考えると、面積当たりの捕獲数は全国的にみても高いレベルにあると考えられます。しかし、駆除だけの対策では効果が上がりません。

◆まず「餌付け」をやめる

一方で、他県には被害を克服している地域もあります。その地域では大々的に駆除を進めたわけではなく、左図の考え方を地域ぐるみで勉強し、「餌付け」をやめたことで被害を克服しています。そこで、町では平成27年度から講習会を実施し、

◆総合的対策の推進

その結果、「餌付け」の起きない環境ができてきたところ。町内にも出てきています。その地区では、ほとんどの農地が柵で囲われたことによって、イノシシ等がえさを自由に食べられなくなり、その結果箱ワナの中

のえさに誘引され、以前よりも駆除も進むようになりました。また、住民総出のヤブの刈払いにより、ひそみ場の解消も進みました。こうした総合的な対策が継続されることで、イノシシ・シカを増やさない・寄せ付けない地域になります。

■被害が増えているのはなぜ？

*人間が「餌付け」して
野生鳥獣を寄せ付け、増やしているからです

町内の環境は、人間が「えさ」と「ひそみ場」を作り「餌付け」をしているのと同じ状況になっています。

【 えさ 】

- ・放棄された果樹（カキ、クリ、ビワ等）
- ・廃棄された農作物

【 ひそみ場 】

- ・荒れた田畑
- ・手入れされていない森林、竹ヤブ、庭木

■どうしたら被害が減るの？

*地域みんなで「えさ」と「ひそみ場」をなくす！
*「駆除」は、「餌付け」をやめてからが効果的！

通常イノシシは、1年に平均4～5頭を出産し、そのうち2～3頭が育ちます。しかし、えさが豊富だと生き残る頭数が増え、その状況で駆除しても減らすことは困難です。よって、対策は次のような順番で進める必要があります。

対策の 順 番

- ①みんなで勉強（正しい知識をつける）
- ②「餌付け」のおきない環境に改善
- ③農地などを柵で囲う
- ④駆除は最後に！

問 産業観光課 ☎内線262

